

**「原油タンカー排出ガス処理設備」が第36回環境賞で「優秀賞」を受賞  
～排出ガスから年間約1万KLのエネルギーを回収・有効利用～**

記者各位

当社(社長:西尾 進路)および当社グループの原油中継備蓄会社である新日本石油基地株式会社(社長:淵脇 哲朗、鹿児島県鹿児島市、以下「新日本石油基地」)は、「原油タンカー排出ガス処理設備」について、財団法人日立環境財団※と日刊工業新聞社が共催する第36回環境賞において「優秀賞」を受賞しましたのでお知らせいたします。

環境賞とは、1974年度に発足した表彰制度であり、環境への負荷が少なく持続的発展が可能な研究・開発・調査について、画期的な成果を上げるか、その成果が期待される、個人・企業・団体を表彰するもので、当社グループは、一昨年「優良賞」を受賞した「ベトナム・ランドン油田随伴ガス回収・有効利用CDMプロジェクト」に続き、2回目の受賞となります。

当社および新日本石油基地では、原油タンカーからの排出ガスを収集・処理するための新たな技術開発に際し、理論と実践をマッチさせるべく、2004年から臭気成分などの排出ガスの性状把握について、鹿児島大学と産学共同研究を進めてまいりました。

本設備は、2007年5月より稼動しており、年間3,100万m<sup>3</sup>の排出ガスを処理することで、排ガスに含まれる約70%のVOC(揮発性有機化合物)をエネルギー(原油換算:年間約10,000KL)として回収し、有効利用することができます。回収されなかった残りのVOCと臭気成分は、分解装置で処理されます。

VOCの回収においては、灯油や活性炭を使用する従来のプロセスではなく、原油で直接吸収するという、当社グループが独自に開発した世界初のプロセスを用いており、将来的には、中東諸国など産油国での原油出荷基地において、環境対策とエネルギーの有効活用に寄与する技術になり得るものと考えています。

当社グループは、経営理念の中に「Environmental harmony(地球環境との調和)」を掲げ、今後も地球環境保全に努め、サステナブル(持続可能)な社会の創造に貢献していきます。

※:環境問題に関する総合的な調査・研究活動を通じて、環境についての正しい認識と理解を促進することを目的とし、日立製作所の創業者・小平浪平翁20年祭を記念して、1972年(昭和47年)1月に「(財)公害調査センター」として設立された公益法人。2001年(平成13年)より「(財)日立環境財団」に名称を変更。

以上